

国際地域研究専攻の発足にあたって

At the Start of Master's Program in International
Area Studies: The Chair's Address

筑波大学大学院人文社会科学研究所
国際地域研究専攻長

遅野井 茂雄
OSONOI Shigeo

筑波大学大学院修士課程に地域研究研究科が設立され学生を受け入れたのは、筑波大学開学直後の1975年でした。世界の諸地域を対象に、学際的視点から教育研究を行う研究科の設立は注目を浴び、全国から多くの学生を惹きつけました。以来30余年、国際性、学際性、実践性を柱に、日本の地域研究をリードする教育研究機関としての役割を担い、1500人を越す修了生を送り出してきました。その中には多くの留学生が含まれており、修了生は全世界で活躍をしています。

この間、グローバル化の進展、他大学での大学院地域研究課程の設置など、地域研究をとりまく教育環境も大きく変わりました。こうした中で、中期計画に基づき独立修士課程の博士課程への改組再編の全学的な流れに対応して、本2008年度、地域研究研究科も独立修士課程の歴史に終止符をうち、新たな再編の道を選択することになりました。当初は、博士（地域研究）を授与する博士後期課程の設置も素案に上りましたが、構成員の関係で止む無く断念し、人文社会科学研究所博士前期課程、国際地域研究専攻としてスタートを切りました。これにより、人文社会科学研究所の他分野との学際的・学融合的な連携関係が一層強化されることが期待され、修了生の他専攻後期課程への進学も容易となります。

周知の通り地域研究（Area Studies）は、世界各地の実態を学際的に研究し、その個性や特性を総合的に把握することをめざす学問領域です。一定の文化を背景に地域に住む人々と、人々が作り上げる社会に内在する論理など深い知識と洞察を、フィールド調査等を通じて多角的に把握することにその真髄があります。こうした地域研究によって蓄積された知見を通してのみ、平和構築、持続的開発、異文化間の共生等、今日、人類が直面する課題に有効に対処することが可能となり、外交や国際協力、ビジネスや企業活動も実を結ぶことができると言えます。グローバル化の進展する現代世界において地域研究の重要性は益々高まっています。本専攻でも、この改組再編を機に、グローバル化の時代にふさわしい地域研究の充実と発展を図り、流動化を増す国際社会に対応しうる、高度な専門知識を持つ人材の育成に取り組む決意しております。

国際地域研究専攻では、ヨーロッパ・アメリカ・ラテンアメリカ研究、アジア研究、日本研究の3分野に大きく地域を収斂させ、ヨーロッパ研究、アメリカ研究、カナダ研究、ラテンアメリカ研究、東アジア研究、東南アジア研究、中東・中央アジア研究、さらに日本研究は日本社会研究、日本文化研究、日本語教育研究に細分化し教育を充実させます。グローバル化にともない地

域概念も多様化しており、地域間の比較研究を行うニーズも増大しており、今後カリキュラム編成上の検討事項となってくると思われます。とくに、日本研究は留学生の需要が高いため3研究コースを設け、国際比較研究の観点から、後期課程に設けた国際日本研究専攻との一体的な研究教育指導体制を整えています。日本研究が重要な柱である筑波大学の地域研究の特徴をいかに活かすかが、教育研究上の重要課題となります。

年々本学の地域研究は国際性を高めています。日本研究を中心に留学生が増加し、新専攻1期生の半数を留学生が占めました。またこの他、正規の定員45名（留学生枠15名を含む）に加え、国際協力の一環としてJICA/JICEが実施しているJDSプログラム（人材育成支援無償事業）を通じ、毎年10名を越すアジアの留学生を地域が受け入れています。さらに本年度から文科省の国費留学生の優先的配置を受けた二つの中央アジア特別プログラムが本格的に開始され、毎年20名を越す留学生を受け入れることとなります。30名を越す三つの特別プログラムはいずれも英語プログラムで、渡日前の入学試験を経て選抜し、1年、ないし2年の課程修了後、学位（国際学）を与えています。

『筑波大学地域研究』は、地域研究研究科の紀要としてこれまで重要な役割を果たしてきましたが、新専攻としても同一の紀要を維持し、発展させることとしました。ここに30号として刊行できることは大きな喜びです。上に述べた、グローバル化にともなう地域研究の重要性や比較研究の要請、また国際性の増大等を踏まえた地域研究の斬新な議論やアイデア、アプローチ等が誌上を通じて活発に展開され、筑波らしい地域研究の成果が上がることを期待するとともに、本誌が質の高い地域研究のジャーナルとして発展することを期待して止みません。